

ニヨリテ、イロ／＼ノ説ラツケテ云ハ、皆僻コトナリ、組テフスヨトイヘバ能ク聞ヘテスムコトナリ、

〔東海道中膝栗毛七編〕人〇京都の コリヤじやうもんがいくそふじや、おひもて出やしやんかい

な、じゃあ、そのなんがいくことは、火事が、 らいどにじやうもんがいくぞいな、アレあこへはしそ

もていくわいな、あはよ／＼、 彌 何ぬかしやアがる、 らいふぬけなわろじやハ、ハ、 彌次

イヤこの、さくめら、そのはしごをあたまへのせたりに、くつとふりかへれば、 らいア

アイタ何じやいどめつそふな、此人中でながいもの横たはしにくさつて、ゑらいあんだらじ

やな、のうてんとやいてこませやい、 彌次 ナニたはことぬかしやアがる〇下

〔浪花街適噂三千長〕江戸で何致しましてといふ場を、大坂ではメツツウナといひやすね、そして

江戸でてんづけたの、つつ かけたのといふ處を、大坂ではノツケにといひやすよ〇下

〔伊呂波字類抄久〕久 訛言

〔書言字考節用集八〕言 訛ヨコケル 日本ナニル

〔倭訓栞後編十四〕なまる 由舎人の言葉を今もしかいへり、日本紀に訛をよこなまるとよめる

是也、摩訶止觀にてなまるとよめりとぞ、生の義不熟の意也、

訛言

〔日本書紀三〕神武 戊午年二月丁未、皇師遂東、舳舻相接、方到難波之碕、會有奔潮太急、因以名爲浪速國、

亦曰浪華、今謂難波訛訛此云與、許奈磨虛

〔日本書紀五〕崇神 十年九月、埴安彥挾河屯之、各相挑焉、故時人改號其河曰挑河、今謂泉河訛也、〇中 亦

其〇地 安彦卒、怖走、尿漏于禪、〇中 禪屎處曰屎禪、今謂樟葉訛也、

〔日本書紀九三〕四十二 年正月戊子、天皇崩、十一月、新羅弔使等喪禮既闋而還之、爰新羅人恒愛京城、傍耳成山、畝傍山、則到琴引坂、顧之曰宇泥畔巴、椰彌彌巴、椰是未習風俗之言語、故訛畝傍山、謂宇